

2年

お話のさくしゃになろう
～まとまりに分けて、お話を書こう～

1. 学習目標

カードや絵からさらに想像して、お話をくわしく書こう。

2. 指導の流れ（第7・8時／全10時）

教師の動き	指導のポイントなど
<p>1.めあての確認『カードや絵からさらにそうぞうして、お話をくわしく書こう。』（ルーブリックと学習の流れを提示する。）</p> <p>「友だちに伝わるように、カードや絵からさらに想像して、お話を詳しく書きましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none">・ルーブリックは下記。
<p>2.「初め」「中」「終わり」に書くことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・カードや友だちに説明したときのことを思い出させ、冒頭部分の書き方を押さえる。
<p>3.P.74の「お話のれい」を参考に、カードに書いた出来事の様子を詳しく書くための工夫を考えさせる。</p> <p>発問「出来事の様子を詳しく書くためにはどうしたらよいでしょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none">・「主語と述語に気をつけよう」の例文や「お手紙」の文をふり返らせ、「誰が何をしたか」が分かるように書くとよいことに気づかせる。・「言う」以外の「話すこと」を表す言葉を使うとよいことに気づかせる。
<p>4.カードや絵から想像を広げ、構成の順序に沿ってお話を詳しく書くことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・カードを読み返し、話の流れのつながりを意識できるようにする。・詳しく書くためのポイントをいかしてお話を書いている児童の作品を適宜紹

<p>「書き終えたら声に出して読んでみましょう。話はうまくつながっていますか。」</p> <p>5.ルーブリックを用いて自己評価させる。</p> <p>6.本時をふり返り、次時への見通しを持つ。</p>	<p>介することで、他の児童も言葉を選んで書けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一文ごとやまとまりごとに自分の書いた文章を読み返す習慣をつけさせたい。
---	--

3. ルーブリック評価

	①はじめ。とうじょう人ぶつのしょうかいやお話のきっかけを書いているか。	②中。できごとを書いているか。	③終わり。とうじょう人ぶつが、さいごにどうなったかを書いているか。	④「言う」いがいの、「話すこと」をあらわすことばを書いているか。	⑤ともだちが読んでわかる文しょうを書いているか。
おおむね満足できる状況(B)	二ひきのねずみの名前と、どんなねずみかを書いている。	何かを見つけたり、どこかへ出かけた、だれかと出会ったり、こまったことがおこったりするできごとを書いている。	とうじょうするすべての人ぶつが、さいごにどうなったかを書いている。	「きく」「たずねる」「答える」「知らせる」「教える」「つたえる」「さげぶ」などのことばをつけて書いている。	読み直して、分かりにくいところがないように書き直しをしている。
努力を要する状況(C)への支援	教科書の絵と、ことばのたからばこを見比べて、どんな人物にするかイメージが広がるように助言する。	カードに書いたアイデアをもとに、どの人物が何をしたり言ったりしたのかを書かせる。	主語と述語だけの文章にならないように、くわしくする言葉をつけ足している事例を紹介する。	教科書、板書を参考に、「話すこと」を表す言葉を使いかえた言葉から、使いたい言葉を選ばせる。	ペアやグループのメンバーで読み合い、教え合いができるようにする。

4. 児童の成果物

あるところに、コリとクンというネズミの友だちがいました。府たちは今日、山へぼうけんに出ようとやくそくしていました。

山のとっぺんを目ざしてのぼっていきました。きゅうなさか道があつて、二人は「しんどい。」

と言いながらも、とっぺんにつきました。とっぺんには小さい広場みたいなところがあつたので、そこのベンチでおべんとうを食べました。クンはくいしんぼうなので、大きいおべんとうでした。楽しく話していると時間がすぎ、もう夕方になりました。二人は

「もうすぐ夜になるから帰ろうか。」と言って山を下りていきました。

二人は山を下りて、

「今日はつかれたね。」

と言って家に帰りました。